

令和 7 年度感染症救急搬送サーベイランス運用委員会 議事概要

1 開催概要

日時：令和 8 年 1 月 8 日（木曜日） 午後 3 時から午後 4 時 15 分まで

場所：オンライン開催

参加者：【委員】

- ・聖路加国際大学 遠藤 弘良 名誉教授【委員長】
- ・東京都保健医療局 西塚 至 感染症対策調整担当部長【副委員長】
- ・国立感染症研究所 大日 康史 感染症疫学センター主任研究官
- ・東京消防庁 友野 一辰 救急部副参事（救急対策担当）
- ・東京都立墨東病院 中村 ふくみ 感染症科部長
- ・東京都保健医療局 舟木 素子 南多摩保健所長
- ・東京都保健医療局 鈴木 祐子 健康安全研究センター企画調整部疫学情報調整担当課長

欠席者：【委員】

- ・荒川区 辻 佳織 健康部長兼保健所長

【事務局（東京都保健医療局）】

- ・感染症対策部防疫課
若生エイズ・新興感染症担当課長、沓澤危機管理担当課長代理、後藤危機管理担当
- ・健康安全研究センター
宗村健康危機管理情報課副参事

本委員会は、感染症救急搬送サーベイランス事業の運用状況を確認するとともに、今後の改善方策やシステム改修の方向性等について意見交換を行うことを目的として開催した。

2 感染症救急搬送サーベイランス事業の概要

感染症救急搬送サーベイランスは、新興・再興感染症等による健康危機の発生を早期に把握し、都民への被害拡大を未然に防止することを目的として、東京消防庁の救急搬送情報を活用し、異常な症例の集積を探知する仕組みである。

本事業は平成 22 年度から東京都全域を対象として本格運用を開始しており、関係機関（東京都、東京消防庁、保健所、健康安全研究センター等）が連携しながら継続的に運用している。令和 7 年度で本格運用開始から 15 年目を迎え、データの蓄積とともに、感染症対策における基盤的なサーベイランスとして活用されている。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に加え、近年では世界陸上競技選手権大会やデフリンピックなど、大規模国際イベント開催時の「強化サーベイランス」としても活用されており、平時・有事の双方において重要な役割を果たしている。

3 令和6・7年度の運用実績および異常集積疑い事例

(1) 運用実績の概要

令和6・7年度（令和6年12月から令和7年11月まで）における運用実績について報告が行われた。救急搬送データに基づき、警報レベル別・監視区域別にアラートの発生状況を集計した結果、全体としては例年と同程度の水準で推移していることを確認。

(2) 異常集積疑い事例の状況

同期間中に把握された異常集積疑い事例は16件であり、主な病態は以下のとおり。

- ・嘔吐・嘔気
- ・発熱
- ・呼吸障害

これらの構成比や発生状況は過年度と概ね同様の傾向を示しており、特定の大規模感染拡大に直結する事案は確認されなかった。

一方で、クルーズ船寄港後に複数名が救急搬送された事例や、保健所から医療機関への調査に際し、制度の認知不足により十分な情報取得が困難であった事例が報告された。これを受け、関係機関に対する本事業の意義や法的根拠等について、より丁寧な周知・情報共有を行う必要性を共有。

また、医療機関からの協力を得やすくするため、調査結果やサーベイランスによる成果を適切にフィードバックすることの重要性についても意見が出された。

4 令和8年度に予定しているシステム改修について

令和8年度には、感染症救急搬送サーベイランスシステムについて、運用の高度化・迅速化を目的とした改修を予定。

主な改修の方向性は以下のとおり。

- ・東京消防庁側システムのクラウド化に伴う、都側システムの通信回線の更新
- ・異常事案を探知した際に、関係機関へ自動的に通知するメール配信機能の復活
- ・地図表示機能の再構築による、区域別の発生状況等の視覚的把握の強化

これらの改修により、異常集積の探知から関係機関による対応までの時間短縮が期待される。一方で、保健所等の実務への影響にも十分配慮し、運用フローの整理や事前周知、マニュアル改定を併せて進めていく必要があることを確認。

5 解析対象病態分類の追加について

現在、救急搬送データ上で把握されている病態分類のうち、解析対象となっていない「頭痛」「発疹」「下痢・血便」の3病態について、令和8年度から新たに解析対象に追加する方針。

これらの病態は、麻しんや海外由来感染症等の早期探知に資する可能性があり、また、追加後10年以上が経

過し、分析に耐えうるデータが十分に蓄積されていることから、解析対象とすることが適当と判断。

過去のデータ検証では、同一日時・同一場所で 3 名以上の搬送が生じ、保健所による詳細調査が必要となる事例は確認されておらず、業務負担の大幅な増加は生じないものと見込まれている。ただし、特に「頭痛」については非感染性要因も多いことから、今後のデータの傾向を踏まえ、必要に応じて検討・見直しを行うことが望ましいとの意見が出された。

6 今後の予定

次回の感染症救急搬送サーベイランス運用委員会は、令和 8 年 12 月から令和 9 年 1 月頃の開催を予定している。引き続き、関係機関と連携しながら、サーベイランス体制の充実と感染症対策の強化に取り組む。

以上